



2012年9月11日[火]—11月4日[日]

沖縄県立博物館・美術館 企画ギャラリー1・2

[開館時間] 9:00~18:00(金・土は20:00まで)(展覧会入場は閉館30分前まで)

[休館日] 月曜日(ただし9月17日、10月8日は開館、翌火曜日休館)

[観覧料] 一般 800(640)円 高大生 500(400)円 小中生 300(240)円

※()内は前売り ※70歳以上の方に限り、当日券20%割引。身分証の提示が必要

[プレイガイド] ミュージアムショップゆいむい・リウボウサービスカウンター コープあぶれ・ファミリーマート各店(イープラス)・ローソン各店(Lコード: 89820)・ジュンク堂書店那覇店・Booksきょうはん 美浜店・一日橋店・とよみ店・安謝店・球陽堂書房那覇メインプレイス店・西原シティ店・TSUTAYA那覇新都心店・首里店

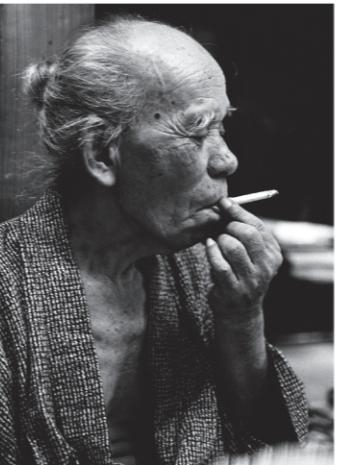
主催: 沖縄県立博物館・美術館

後援: 沖縄県写真協会、沖縄写真連盟、ニッコールクラブ沖縄支部、二科会沖縄支部、沖縄県文化協会、財団法人沖縄観光コンベンションビューロー、NHK沖縄放送局、沖縄テレビ放送株式会社、琉球放送株式会社、琉球朝日放送株式会社、株式会社エフエム沖縄、株式会社ラジオ沖縄、沖縄タイムス社、琉球新報社、タイフーンfm

MINORU YAMADA

沖縄県立
博物館・美術館
企画展

山田實展 人と時の往来



謝花雲石翁 松尾の自宅にて 1961



田に働く少女 島尻 1971



客待ち 牧志バス停 1960



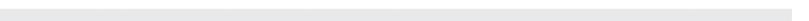
手をつないで 糸満漁港 1960



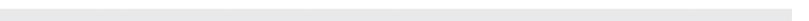
波と遊ぶ少年たち 1965



紙芝居を見ている子どもたち 那覇 1960



給食中の少年 豊見城 与根 1968



石敢當と少年 国頭 嘉陽 1968

山田實(やまだ・みのる、1918~)は、戦前の那覇市で育ち、戦争の世紀とも言われる20世紀を経て今日まで時代の隆盛を見つめ続けてきました。二・二六事件の直後に大学進学のため上京し、就職先の勤務地であった満州で召集。ソ連軍との交戦中に沖縄壊滅の知らせを聞きます。そして敗戦後2年もの間、極寒のシベリアで飢えと過酷な労働に耐えて生還しました。帰郷は東京での養生を経た1952年。まもなく桜坂に写真機店を開業し、経営の傍ら、沖縄を写真で記録し続けました。物心ともに貧苦の復興期に、写真俱楽部を興し、二科展や沖展に関わるなど、戦後の沖縄写真界、芸術文化の黎明期を支えた一人です。戦前から今日まで、激動の世わりを見つめ続けた山田實。本展では、資料とともに山田實の写真と人物に迫りながら、その眼をとおした「沖縄」の姿を浮かび上がらせるものです。すでに戦前の価値観や風景を識る人も少なくなってしまった今日、山田實の刻んできた記(しるし)から、私たちが汲みとるべきは何か。私たちが失ってきたもの、未来へ遺すべきものは何か、本展が考える一助となれば幸いです。

関連催事
1.シンポジウム [入場無料]
10月6日(土) 14:00~17:00 博物館・美術館 講堂

パネリスト／大城立裕 氏(作家) 金城棟永 氏(写真家)
仲嶺絵里奈 氏(写真史研究所研究員) 仲里効 氏(批評家)
コーディネーター／大城仁美

2.ギャラリートーク
9月15日(土) 15:00~16:00 企画ギャラリー内
山田實 氏 [本展の当日有効の観覧券が必要です]

3.担当学芸員によるキュレータートーク
9月22日(土) 15:00~16:00 企画ギャラリー内
大城仁美 [本展の当日有効の観覧券が必要です]



アクセス
【バス】
那覇空港発
99番線 おもろまち3丁目バス停下車徒歩5分
120番線 上之屋バス停下車徒歩10分
市内線 3・7・10番線 県立博物館前バス停下車
6番線 那覇メインブレイス東口バス停下車徒歩5分
市外線 バイパス経由 おもろまち駅前バス停下車徒歩10分
国道58号経由 上之屋バス停下車徒歩10分
おもろまち行 おもろまち1丁目バス停下車徒歩3分
【沖縄都市モノレール】ゆい・レール おもろまち駅下車徒歩10分
お問い合わせ 沖縄県立博物館・美術館
〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3-1-1TEL:098-941-8200(代表)
<http://www.museums.pref.okinawa.jp>
カーナビマップコード